

B & G 「海洋セミナー」に行ってきました **B&G**

平成22年7月29日から8月2日までの5日間、B & G財団主催平成22年度B & G「海洋体験セミナー」が沖縄県で行なわれ、本町からは未来を拓く人づくり推進事業を活用し、和寒小学校6年生の松村亜弓さん、5年生の合田朋美さん、渡辺勇志さんの3名が参加しました。参加者を代表して合田朋美さんの感想をご紹介します。

題名 「B & G海洋体験セミナーに参加して」 和寒小学校5年 合田朋美

私は、7月29日から8月2日まで、B & G海洋体験セミナーに参加してきました。

研修では、沖縄の文化にふれるものづくり体験や主に海での活動が多く、ほとんど体験したことのないものばかりでした。

カヌーやバナナボートが楽しく、その中でもシュノーケリングで、シュノーケル付きのマスクとフィンを身に付け、海にもぐり、見たことのない魚を見たりサンゴを見たりしたのが楽しかったです。あと、イルカをさわったり、美ら海水族館でイルカのショーを見たりしたのが楽しかったです。

夜には、「自然体験活動について」や「海洋生物の生態と海洋環境について」教えてもらったり、エイサー鑑賞をしたり、体験もしました。現地で食べた物の中には、タコライスや、ゴーヤとパイナップルが入ったカレーライスを食べました。他にも、サターアングギーや、ちんすこうを食べたりシークワサージュースも飲みました。世界遺産の首里城公園も見学し、大きいな、と思いました。

研修中は、いろんな所から集まった人たちと、すぐ友達になれ楽しく過ごせました。

沖縄の文化にふれることができ、青空のもと、きれいな海で研修ができた事がいい体験になり夏休みの思い出になりました。



わっさむ担い隊活動報告

町の新たな担い手として地域の住民とともに地域活性化に取り組み、町の発展に貢献することを目的に設置された「わっさむ担い隊」として、今年8月から2名が来町し活動をはじめています。この1ヶ月の活動を今回は桐生一樹さんが報告します。

桐生一樹



和寒町に来て早一ヶ月が過ぎました。初めは知り合いが誰もいない町なので、買い物に行ったりしても「この人は誰だろう」という視線が気になっていました。

和寒に来て驚いたのが見ず知らずの私に、町の人、特に子どもがあいさつをしてくれるということです。東京では考えられません。東京では、すれ違う人には町内であっても無関心、子どもも知らない大人はなるべく避けるよう教えられているような感じがあります。東京近郊では引越の際もあいさつは迷惑になるのでしない方がいいといった習慣になっており、ずっと東京暮らしだった私はそこが非常に戸惑っています。

和寒の子ども達の元気よさ、礼儀正しさは本当に素晴らしいと思います。

活動としては、最初は、町内の施設等を視察し、町に慣れることから始まり、気候、風土、歴史等についても若干ではありますが触れることができました。

9月に入ってからは農作業の研修や活性化センター公開デーの等徐々に町民のかたとの交流もできてきました。

和寒町は若い人が減り、産業等の衰退が心配されており、会う人、会う人に「何もない町で・・・」と言われてますが、私のこれまでの和寒町の感想は、確かに若い人は決して多いとは言えませんが、それゆえ人と人との距離間が近く皆よいかたばかりです。和寒町は住み心地も大変よく、特に高齢者・子どもに対する施設等が大変充実していると感じます。和寒に人が増えるのはいいことですが、このバランスは崩さないようお役に立てればと考えています。

徐々に寒さを感じるようになり、いよいよ和寒暮らしの本番に入りますが体調に気をつけ、町民の皆さんと交流を深めて次の一ヶ月も充実した活動をおくりたいと思います。



農家での実習の様子